

健康医療情報の二次利用によるデジタルヘルス推進にかかる調査業務 仕様書

1 業務の目的

昨今のデジタルテクノロジーの進展は著しく、AI を活用した次世代医療技術の開発、スマートフォンを活用したヘルスケアの進展、ロボットやアバターを活用した治療の開発など、多様なソリューションが登場しつつあり、デジタルテクノロジーはヘルスケア分野において非常に重要なツールである。

神戸市（以下、「本市」という。）では、医療産業都市の取り組みとして、平成 27 年度から健康“生き活き”羅針盤リサーチコンプレックスに参画してきた。健康“生き活き”羅針盤リサーチコンプレックスでは、個人の健康・医療データを収集・統合し、利活用するための市民 PHR 基盤が開発されており、この基盤を活用し、令和 3 年度より、神戸デジタルヘルス推進事業を開始する。

神戸デジタルヘルス推進事業は、神戸市民を対象として、計測データの二次利用のための同意取得まで行う“KOBE 健康・カラダ計測”を企業とともに実施するなど、企業ニーズを踏まえたヘルスケア関連データの取得を中心とした取り組みにより、デジタルヘルス分野の研究開発を促進することを目的としている。

本業務は、神戸デジタルヘルス推進事業の目的達成に向けて必要な調査の業務委託を行う。

2 委託契約期間

契約締結日から令和 4 年 2 月 28 日まで

3 業務内容

(1) 業務項目

① 他都市の健康医療情報の二次利用事例に関する調査業務

国内の他都市における健康医療情報の二次利用に向けた取り組みにかかる下記項目等について、自治体、アカデミア等関係者へのヒアリング等により調査し、整理・分析する。

(調査項目例)

- ・事業内容・目的
- ・活用データの種類・形式
- ・事業主体、産学官民の連携体制
- ・データおよび同意の取得方法
- ・データの名寄せ
- ・データ管理者の要件

- ・関係法の整理
- ・倫理審査、データ利用時の申請等を含む具体的な事務の流れ
- ・収益モデル
- ・事業実施における課題
- ・その他

② “KOBE 健康・カラダ計測” への企業ニーズに関する調査業務

ヘルスケアに関心のある企業へのヒアリング等により、“KOBE 健康・カラダ計測” への参画の意向、計測項目、取得データの必要数等の企業ニーズの整理・分析・可視化を行う。

③ ロードマップ、報告書の作成

①・②を踏まえ、神戸デジタルヘルス推進事業の事業スキーム、所要経費、自走化に向けたロードマップおよび報告書を作成する。

(2) 打合せ協議

月に1回以上打ち合わせを実施する。

(3) 中間報告について

受託者は令和3年9月中旬を目処に、本市に対して本委託業務に関する総括的な中間報告を行う。

(中間報告の時点で、令和4年度の事業実施にあたっての所要経費および事業スキームを提案すること。)

4 スケジュール (予定)

令和3年6月～8月 : 他都市事例の調査、企業ニーズの調査、事業スキーム・ロードマップ検討

令和3年9月 : 中間報告

令和3年10月～ : 中間報告のブラッシュアップ

5 成果品

報告書 2部

電子データ 一式

※納品は令和4年2月

ただし、打ち合わせの都度、調査結果等は市に提出するものとする

6 最終報告について

受託者は令和4年2月に、市に対して成果品を納品するとともに、本業務に関する総合的な最終報告を行う。